

# 作業療法 第44巻 第4号 (通巻247号) 目次

## ◆巻頭言

職業的アイデンティティと作業療法の専門性 . . . . . 藪脇 健司 361

## ◆学術部報告

学術誌『作業療法』第43巻の表彰論文 . . . . . 学術誌編集委員会 363

## ◆総説

地域在住高齢者を対象としたICT 機器を用いた作業療法介入に関する  
スコーピングレビュー . . . . . 川端 敦史・他 366

作業療法士は児童虐待とどのように向き合うべきか？  
—スコーピングレビューから見る現状と課題— . . . . . 後藤 健太郎・他 375

## ◆原著論文

回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者の摂食嚥下関連評価  
The Modified Mann Assessment of Swallowing Ability と自宅復帰の関連性  
. . . . . 坂本 和弥・他 386

回復期の作業療法士が機能的な目標を希望する脳卒中者と共に  
作業に焦点を当てた目標を設定するまでの関わり . . . . . 佐藤 亮太・他 395

C型サービスモデル事業におけるリエイブルメントに基づく介入効果の検証  
. . . . . 赤堀 将孝 407

回復期リハビリテーション病棟入院患者のQOL に不安が与える影響  
—前向きコホート研究— . . . . . 佐貝 拓郎・他 416

心のバリアフリー評価表試作版の尺度特性の検討 . . . . . 古田 憲一郎・他 427

ひきこもりからの回復プロセスと支援の在り方に関する質的研究  
—10年のひきこもりを経て対人援助職として勤務する人の語りから—  
. . . . . 真下 いずみ・他 438

## ◆実践報告

3事例の脳性麻痺片麻痺児に対する修正CI療法を用いた取り組み . . . . . 竹下 晃・他 446

高次脳機能障害者の復職支援に対する両立支援制度活用の有用性  
—作業療法士が活用すべき新たな復職支援戦略— . . . . . 中島 裕也・他 454

肩関節に対してHAL®医療用単関節タイプを使用することで、  
脳卒中後の中等度上肢運動麻痺が改善した事例 . . . . . 西村 大地・他 465

独居高齢者に対するタブレットを活用した集団作業療法プログラムの実践とその効果  
. . . . . 川端 敦史・他 472

## 編集後記

▶本号では、総説 2 本、原著論文 6 本、実践報告 4 本、そして第 43 巻の表彰論文を掲載しています。総説はいずれもスコーピングレビューであり、近年、方法論の標準化が進んでいることがうかがえます。他の論文も、テーマや対象、研究手法が多岐にわたり、作業療法の関心領域の広さと多様性がよく示されています。さて、COVID-19 に伴う生活行為への制限も徐々に緩和されてきましたが、こうした制限が人々の健康や生活にどのような影響を与えたのかを、作業療法学の立場から総括する時期にあると感じます。日々の作業と健康との関係についての知見や実践が、今後の感染症対策や社会的課題の解決に寄与することを期待しています。(T・I)

▶私は 2025 年 4 月末から 2 週間、OT 技術支援のボランティアとしてケニアに渡航してきた。派遣先はナイロビにある障害児支援施設で、主に日本からの寄付によって運営されていた。ケニアには障害児のための施設も支援制度も存在しない。施設利用者は貧困家庭がほとんどで、子どもへの投薬も困難な家庭が多かった。物理的な制約が多かったものの、家庭にあるマットやクッションを使った姿勢ケアや食事介助の方法、自閉症の子どもたちとのコミュニケーションなど、ケニアでも活用できる作業療法技術はいくつかあった。日本ほど安定してはいないが、ケニアでは現在オンラインで自由に情報を得ることが可能であり、施設職員は全員スマホを所持していた。つまり学術誌などをオンラインで検索し、自動翻訳で知識を得ることは可能だった。これは先人から引き継いで蓄積してきた医療技術や作業療法の知識・知恵を、異なった時代の異なった文化圏の人々でも活用できるということだ。学術誌の編集・出版・オンライン化にはそのような意義と目的がある。(M・M)